

2. 文化庁連携調査 —宇治宝蔵院所蔵鉄眼版一切経版本調査—

河村 如乃・趙 金実

1. はじめに

京都府宇治市の黄檗宗大本山萬福寺宝蔵院が所有する鉄眼版一切経版本は、黄檗宗僧である鉄眼道光（1630-1682）が発願し、寛文8年（1668）から延宝6年（1678）に開版され、1957年に国の重要文化財に指定された。この度、文化庁文化財第一課歴史資料部門の依頼につき、関西地区の諸大学から大学院生が文化庁非常勤調査員として採用され、約6万枚におよぶ版本を対象に、主に月2回（夏季・春季休暇期間は長期）、5年に亘る調査が開始された。

2. 調査概要

調査日 2024年9月～（以降継続予定）

調査場所 宇治市黄檗宗大本山萬福寺宝蔵院収蔵庫

調査員 文化庁歴史資料部門、文化庁非常勤調査員（正瑞千幸、田中琢登、濱野覚生（以上博士後期課程）、河村如乃、趙金実（以上博士前期課程）、関西地区諸大学所属の大学院生）

調査内容 版木のクリーニング、計測、目録作成

3. 調査の目的と現在の進捗

現在版木の個別目録がなく、版木の保存状況が不明瞭である。我々調査員は、各収蔵棚から一枚ずつ版木を取り出し、状態を確認の上、目録を作成することが求められる。9月から12月まで計10回の調査をおこない、計2,878枚の版木を調査した。



写真1 目録の入力



写真2 版木の取り出し

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
